

園内研修情報

令和6年度 第2号

令和7年1月15日

水曜日



写真：園内研修の様子

「小規模保育事業所の強みを生かし、一歩ずつ前へ！」

広島市乳幼児教育保育支援センターの職員が、市内の小規模保育事業所を訪問してインタビューしました。

何から始めたらいいのかわからないから、職員と話し合うことから始めました。

○ 訪問した園

小規模保育事業所

園児：19人 職員：11人

※ 職員は給食調理員を含めた人数。

○ 今回お話をしてくださった方

園長先生



○ インタビュアー

センター職員

センター こんにちは。こちらの園では、園内研修の取組を始められたとお聞きました。本日は、色々とお話を聞かせてください。よろしくお願いたします。

園長 よろしくお願いたします。

センター なぜ、園内研修に取り組むことにされたのですか。

園長 自園をどのような園にしていきたいのかを、職員みんなで考えたいと思ったことがきっかけです。けど、何から始めていいかわからなくて、4月に開催した最初の園内研修では、“これからどのような園にしたいか。”をみんなで話し合うことからスタートしました。

センター それは、ワクワクしますね。どんな話し合いになったのですか。

園長 まず、主体性に関することや、遊びの夢中度をどう高めていきたいかなど、子どもに対する職員の思いや願いを共有しました。

そして、2回目の園内研修では、“新年度が始まって困っていること”について話し合いました。

センター なぜ、“新年度が始まって困っていること”を話し合ったのですか。

園長 職員には、より深いこども理解が必要だと感じたからです。

センター どういうことでしょうか。もう少し詳しくお聞きしてもいいですか。

園長 自園は若い先生も多く、発達をはじめとしたこどもの育ちや姿を見取ることが難しそうだと感じることもありまして。ですから、保育で困っていることや悩んでいることからこども理解を深めれば、保育の改善につながると考えました。

センター なるほど！職員がこども理解を深めると、悩みの質も変わっていきますよね。

園長 そうそう、それです！私もそうですが、保育者はどれだけ経験を重ねても保育の悩みが尽きません。しかし、こども理解を深めていく程に、悩みの質が変化し、若い頃の保育の悩みは、今となっては悩みにならなくなるものも多いです。

話し合いを続けるうちに、 人材が輝き始める。

センター おっしゃる通りかもしれませんね。だから、“新年度が始まって困っていること”をテーマにして話し合うことで、職員のこども理解を深めようとされたのですね。

園長 そうですね、その後は職員1人1人が“自分のクラスのこどもの姿を発表することや、“1人の先生の悩みを職員みんなと一緒に考える”といったこともやってみました。

センター 園内研修をやり始めて、何か園長先生が感じていることなどはありますか？

園長 そうですね、職員がさらに工夫するようになったように思います。なにより、少しずつですが、職員同士のつながり強くなってきたように感じます。

センター 興味あります！具体的にどんなところに工夫する姿を感じられ、どのようなところに職員同士のつながりが強くなったと感じたのですか。

園長 例えば、工夫で言えば、棚に登りたがる1歳児の姿を見て、「あぶないよ。」という保育ではなく、「じゃあ、どうしようか！？」と考え、登りたいというこどもの意欲を保障できるよう、環境を再構築する保育が多く見られるようになりました。また、職員のつながりについては、こどもが心を寄せる環境について、職員同士でアイデアを出し合っておままごとコーナーを用意しています。職員がそういったことに一緒に力を入れている姿を見て、つながりが強くなっていると感じますね。

センター 確かに、そういった工夫は、こども理解がなければできないですし、一緒に保育を考えて取り組む姿には、つながりを感じますね。

園長 そうなんです。だから保育の原点に戻り、私も職員と一緒に、実際のこどもの姿を通して話し合いながら、こどもの発達をはじめとした育ちについてみんなで学べるようにしていきたいと思っています。

センター それは素敵なことですね。

いい保育って何！？いつも疑問をもちながら…。

園長 ありがとうございます。でも、いい保育ってどんなものなのか分からないじゃないですか。

センター どういうことでしょうか。

園長 当然のことですが、こどもの興味・関心、特徴、育ちなどは、1人1人異なります。ですから、対象のこどもが変われば、環境や関わり方を柔軟に変えていく必要があると思います。

センター そうですね。保育って正解が見えないですよね～。

園長 そうなんです！だから、こどもの姿をよく捉えて、こどもにとってよりよい環境や関わりができるように、職員みんなで工夫していきたいんです。それと、小規模保育事業所って、先生同士がそういった繋がりを強くしやすいという強みがあるのかもしれないと思っているので、毎日同じ空間で一緒に保育できるという利点を生かして行ければいいなあって思います。

センター 小規模保育事業所の強みというのがいいですね。そういえば、園内研修の時間ってどうやって確保しているのですか。

園長 自園では、事前に土曜保育の登園予定を聞きます。その際に、こどもの数が少ない日に、園内研修をしています。また、昼寝の時間を活用して協議もしています。それと、園内研修ではありませんが、職員会議は日にちを決めて実施しています。保育は忙しいですが、職員がいつも同じ空間にいるという強みがあるため、職員同士で話す機会も設けやすいです。これも小規模保育事業所のメリットかもしれませんね。

センター 自園の規模や特徴を捉えて強みに変える視点がいいですね！

【レンジ・冷蔵庫】



【エプロン】



写真：職員が用意したおままごとグッズ



写真：園内研修の様子

園内研修をやり始めたばかり、まだまだこれからやりたいことはたくさん！ だけど、一歩ずつ。

園長 夏ごろに、市内の認定こども園を見に行かせてもらって、感じたことがあるんです。それは、こどもの日々のストーリーを環境に生かすこと。そして、こどもの経験を奪わないことでした。

センター なんか、カッコいいですね。

園長 こども主体の保育をするために、大人も主体性を発揮できることや、職員がこどもとワクワクできるような園内の雰囲気づくりをしていくことを大切にしていきたいんです。

センター 本日訪問して、保育室や職員さんの様子、園長先生のお話をお聞きしていると、今おっしゃったようなことを大切にされていることが伝わってきます。

園長 えー！嬉しいです！でもまだまだだと思っています。実際は、何かの歌の歌詞ではありませんが、3歩進んで、2歩下がる。いや3歩下がっているときもたくさんありますよ。こどもが成長している中、職員も成長するためにもがいている感じです。でも少しずつ前に進んでいければいいかな。

センター 園長先生。本日は、素敵なお話を沢山お聞かせいただき、ありがとうございました。始めたばかりの園内研修が、今後どのようにっていくか、とても楽しみになりました。

園長 こちらこそ、わざわざお越しいただき、ありがとうございます。ぜひまた、いつでも様子を見にきてください。